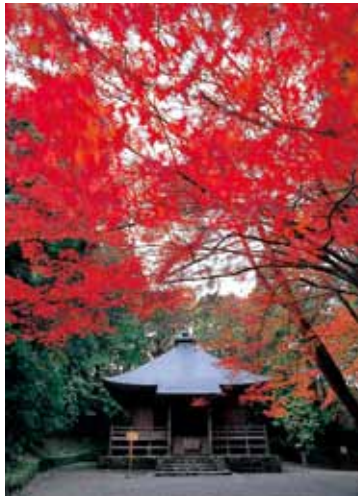
中尊寺

天台宗東北大本山。八五〇年、慈覚大師円仁の開山。12世紀初め奥州藤原氏初代清衡公が前九年・後三年の合戦で亡くなった命を平等に供養し、仏国土を建設するため大伽藍を造営しました。惜しくも14世紀に堂塔の多くは焼失しましたが、金色堂始め三千余点の国宝・重要文化財を伝える平安仏教美術の宝庫です。

「平泉－仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群－」としてユネスコの世界文化遺産に登録されています。

《重文》経蔵

金色堂のそばに建つ経蔵は「中尊寺経」を納めていたお堂。平安時代の古材が随所に用いられています。真紅に色づいた「いろはもみじ」が降りしきる堂前は境内一の秋光です。



みちのく巡礼　四寺廻廊

平泉の中尊寺・毛越寺、松島の瑞巌寺、山形の山寺立石寺はともに慈覚大師円仁の開基です。俳聖松尾芭蕉が『奥の細道』で巡拝した寺々でもあります。専用のご朱印帳で四寺の「ご朱印」をお集めいただくと記念の色紙を、また専用紙に「写経」し四寺にお納めいただくと納経の証としてお守りをお授けいたします。

みちのくを旅する道しるべとして四寺を廻ってみてはいかがでしょうか。

四季の彩り

参拝の道すがら

表参道「月見坂」を散策し、中尊寺の歴史や奥州藤原氏の文化を肌で感じながら、ご朱印や関山香、衡年茶や穀宝米などをお求めになれば、旅の思い出がふくらむことでしょう。

中尊寺事務局
〒二九一-四一一九五
岩手県平泉町衣関二〇二
電話　〇一九一-四六-二三二一
ケータイサイト

《国宝》金色堂 こんじきどう

天治元年（一二四）の造立で、現存する唯一の創建遺構です。ご本尊は阿弥陀如来、脇侍に観音・勢至菩薩、さらに六体の地蔵菩薩と持国天・増長天が本尊を取り巻いています。堂全体を金箔で覆い、皆金色の極楽浄土を現世に表しています。

内陣は螺鈿細工・蒔絵などの漆工芸や精緻な彫金で荘厳され、平安仏教美術の最高峰をなしています。

中央の須弥壇の内に初代清衡公、向かって左の壇に二代基衡公、右の壇に三代秀衡公のご遺体と四代泰衡公の首級が納められています。

本堂 ほんどう

中尊寺の根本道場で、ご本尊は丈六の釈迦如来。藤原四衡公の御月忌、天台宗の祖師忌、法華経一日頓写経会を始めとする法要儀式が行われます。内陣には伝教大師最澄以来千二百年の間受け継がれる「不滅の法灯」が灯されています。各家先祖代々の回向、坐禅・写経の道場でもあります。

本堂

讃衡蔵

讃衡蔵 さんこうぞう

三千点をこえる国宝・重要文化財を収蔵し、展示室では仏像・仏具、経典・書画や藤原氏の副葬品などを拝観いただけます。

《国宝》中尊寺経 ちゅうそんじきょう

紺紙に金字行・銀字行を一行ずつ交書した清衡公発願の「金銀字交書一切経」、絵が貴重な秀衡公発願の「金字一切経」。ともに日本の写経史上の頂点を示すものです。

六月第二日曜日の「法華経一日頓写経会」は百名を超える参加者で、「写経の寺」の遺風を今に伝える行事です。